

| | | | |
|--|---|--|----------------------|
| 学期 / Semester | 2019年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter | 曜日・校時 / Day・Period | 木 / Thu 3, 木 / Thu 4 |
| 開講期間 / Course duration | 2019/09/30 ~ 2019/11/21 | | |
| 必修選択 / Required / Elective | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas) | 2.0/2.0/2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20190587050301 | 科目番号 / Course code | 05870503 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering code | GEMB 15331_005 | | |
| 授業科目名 / Course title | グループ・コミュニケーション (コミュニケーションの生物学・臨床医学) / Biology of Animal Communication and Clinical Medicine of Human Communication | | |
| 編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus | 岡田 二郎 / Okada Jiro, 田中 悟郎 / Tanaka Gorou, 徳永 瑛子 / Tokunaga Akiko, 前田 裕介 / Maeda Yusuke | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course | 岡田 二郎 / Okada Jiro | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s) | 岡田 二郎 / Okada Jiro, 田中 悟郎 / Tanaka Gorou, 徳永 瑛子 / Tokunaga Akiko | | |
| 科目分類 / Course Category | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Intended year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Course style | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | 教養教育B棟15 / RoomB-15 | | |
| 対象学生 (クラス等) / Intended year (class) | 多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部 | | |
| 担当教員Eメールアドレス/E-mail address | jokada nagasaki-u.ac.jp (岡田) goro nagasaki-u.ac.jp (田中) akiko0923 nagasaki-u.ac.jp (徳永) (メールを送信する を@に変更して送信してください) | | |
| 担当教員研究室/Office | 環境科学部本館227室 (岡田) 保健学科5階 (田中) 保健学科5階 (徳永) | | |
| 担当教員TEL/Tel | 095-819-2762 (岡田) 095-819-7995 (田中) 095-819-7996 (徳永) | | |
| 担当教員オフィスアワー/Office hours | 月~金 12:10~12:40 (岡田) 月~金 12:10~12:40 (田中) 適宜 (徳永) | | |
| 授業の概要及び位置づけ/Course overview | ほとんどの動物は、何らかの手段を用いて個体同士での情報のやり取りをおこなっているが、これ が現代の人間社会における複雑なコミュニケーションの礎となっている。ヒトを含めた動物では、 種特異的な動作、音声、化学物質などのシグナルが送り手から発せられ、それらが受け手の感覚器 で受信される。このシグナルは中枢に運ばれ、識別され、次に受け手が起こすべき応答のプログラ ムが生成され、最終的に返信シグナルが発現する。この一連のプロセスは、必然的に生物学的な意 義が存在していて、いずれも脳神経系の機能を基礎としている。また、シグナルの受信から、返信 シグナルの発現という一連のプロセスにおいて、その一部の機能が障害されると、そのコミュニケ ーションは大きく変容する。本講義では、動物とヒトのコミュニケーションについて、その進化、 多様性、生理機能、および障害に注目して学ぶ。 | | |
| 授業到達目標/Course goals | (岡田) 1) コミュニケーションの生物学的意義を理解し、その進化と多様性について説明できる。 2) 様々な動物におけるコミュニケーションの生理学側面について説明できる。 3) 自主的に学ぶ態度を身につける。 4) 与えられたグループ課題に対して、メンバー間で積極的かつ協調的に解決に取り組み、最善の 結論を得るための態度およびスキルを獲得する。 (田中・徳永) 1) 障害をもつ事例からヒトのコミュニケーションの多様な側面を学ぶ。 2) メンバー間で積極的かつ協調的に課題解決に取り組み、最善の結論を得るための態度およびス キルを獲得する。 | | |
| 知識・技能以外に、この授業を通して身につけ て欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3) | 主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society | | |
| 学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking | A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers | | |

| | |
|--|--|
| 成績評価の方法・基準等/Method of evaluation | 予習課題（30%）、講義中のグループ課題（30%）と最終試験（40%）による。 |
| 各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson | 詳細は授業計画詳細を参照 |
| 事前、事後学習の内容/Preparation & Review | 事前学習を課すことがある。 |
| キーワード/Keywords | （岡田） 行動、進化、多様性、脳神経系 （田中・徳永） 精神障害、発達障害、コミュニケーション |
| 教科書・教材・参考書/Materials | LACSに掲載する資料、配布資料等を用いる。 |
| 受講要件（履修条件）/Prerequisites | 特になし |
| アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities) | 長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 。アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp |
| 備考（URL）/Remarks（URL） | 特になし |
| 学生へのメッセージ/Message for students | 高校生物や一般書等から、動物の行動と生態、脳・神経系に関する予備知識があると良い。 |
| 実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience（Y / N） | Y |
| 実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course | 田中 悟郎/精神科病院及び施設で作業療法士としての勤務経験/病院や施設での勤務経験を有する教員が、精神障害者への作業療法について解説する。/ 徳永 瑛子/地域の障害福祉センターでの勤務経験/実際に現場で会う子どもたちの特性、反応の仕方、対処法を伝達している/ |
| 授業計画詳細 / Course Schedule | |
| 回(日時) / Time(date and time) | 授業内容 / Contents |
| 第1回（10月3日・3校時） | オリエンテーション：生物のコミュニケーションとは（岡田） |
| 第2回（10月3日・4校時） | 動物コミュニケーションとその進化1（岡田） |
| 第3回（10月10日・3校時） | 動物コミュニケーションとその進化2（岡田） |
| 第4回（10月10日・4校時） | 動物コミュニケーションの生理学的基礎（岡田） |
| 第5回（10月17日・3校時） | 昆虫の化学コミュニケーション（岡田） |
| 第6回（10月17日・4校時） | コオロギの音声コミュニケーション（岡田） |
| 第7回（10月24日・3校時） | 小鳥の音声コミュニケーション（岡田） |
| 第8回（10月24日・4校時） | オリエンテーション：精神障害とコミュニケーション（田中） |
| 第9回（10月31日・3校時） | うつ病とコミュニケーション（田中） |
| 第10回（10月31日・4校時） | コミュニケーションスキルトレーニング1（田中） |
| 第11回（11月7日・3校時） | コミュニケーションスキルトレーニング2（田中） |
| 第12回（11月7日・4校時） | コミュニケーションスキルトレーニング3（田中） |
| 第13回（11月14日・3校時） | 発達障害とコミュニケーション1（徳永） |
| 第14回（11月14日・4校時） | 発達障害とコミュニケーション2（徳永） |
| 第15回（11月21日・3校時） | 講義の総括・最終試験（岡田） |
| 第16回（11月21日・4校時） | 講義の総括・最終試験（田中・徳永） |

| | | | |
|---|---|--|----------------------|
| 学期 / Semester | 2019年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter | 曜日・校時 / Day・Period | 金 / Fri 4, 金 / Fri 5 |
| 開講期間 / Course duration | 2019/04/08 ~ 2019/06/07 | | |
| 必修選択 / Required / Elective | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas) | 2.0/2.0/2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20190587050501 | 科目番号 / Course code | 05870505 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering code | GEMB 15341_005 | | |
| 授業科目名 / Course title | グループ・コミュニケーション (音表現とグループ・プロセス) / Music and Group Process | | |
| 編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus | 西田 治 / Nishida Osamu, 小原 達朗 / Obara Taturou, 前田 裕介 / Maeda Yusuke | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course | 西田 治 / Nishida Osamu | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s) | 西田 治 / Nishida Osamu, 小原 達朗 / Obara Taturou | | |
| 科目分類 / Course Category | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Intended year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Course style | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | 教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1 | | |
| 対象学生 (クラス等) / Intended year (class) | | | |
| 担当教員Eメールアドレス/E-mail address | osamu-n nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください) | | |
| 担当教員研究室/Office | 教育学部本館5 1 6 | | |
| 担当教員TEL/Tel | | | |
| 担当教員オフィスアワー/Office hours | 昼休み (事前にメールにてアポイントを取ることを) | | |
| 授業の概要及び位置づけ/Course overview | 音楽やスポーツ (身体活動) は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。 本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現象や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。 | | |
| 授業到達目標/Course goals | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際に生かすことができる。 ・言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる。 ・芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる。 ・音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる。 | | |
| 知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3) | 主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society | | |
| 学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking | A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers | | |
| 成績評価の方法・基準等/Method of evaluation | レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント | | |
| 各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson | 詳細は授業計画詳細を参照 | | |
| 事前・事後学習の内容/Preparation & Review | | | |
| キーワード/Keywords | コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ | | |

| | |
|--|--|
| 教科書・教材・参考書/Materials | <p>参考文献</p> <p>『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01)</p> <p>『音楽文化のすすめ?いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03)</p> <p>『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06)</p> <p>『身ぶりとしぐさの人類学』(中公新書) 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)</p> |
| 受講要件 (履修条件) /Prerequisites | |
| アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities) | <p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@m1.nagasaki-u.ac.jp</p> |
| 備考 (URL) /Remarks (URL) | |
| 学生へのメッセージ/Message for students | 音楽やスポーツの得手・不得手は全く問わない。苦手な方の参加を歓迎する。 |
| 実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N) | Y |
| 実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course | 西田 治/小学校音楽科の授業実践経験を持つ。/小学校音楽科の授業づくりについて、自らの実践経験をもとに講義を行う。/ |
| 授業計画詳細 / Course Schedule | |
| 回(日時) / Time(date and time) | 授業内容 / Contents |
| | 1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 |
| | 2 真似る細胞(ミラーニューロン)...ひとの脳の表現性 |
| | 3 しぐさに込められた謎 |
| | 4 サインに込められた意図 |
| | 5 スポーツ中のコミュニケーション(その1) |
| | 6 スポーツ中のコミュニケーション(その2) |
| | 7 サインプレーの実践 |
| | 8 授業の意図と概要 |
| | 音あそび(アイスブレイク) |
| | カードを用いたグループ作曲 |
| | 音の風景 |
| | 音の風景と音楽 |
| | 共に奏でることについて |
| | 踊ることと音楽について |
| | 振り返りと講義の総括 |
| | 受講生による振り返りの発表 |

| | | | |
|---|---|--|--------------|
| 学期 / Semester | 2019年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter | 曜日・校時 / Day・Period | 他 / Others 0 |
| 開講期間 / Course duration | 2019/11/27 ~ 2020/01/30 | | |
| 必修選択 / Required / Elective | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas) | 2.0 / 2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20190587064301 | 科目番号 / Course code | 05870643 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering code | GEMB 15711_005 | | |
| 授業科目名 / Course title | グループ・コミュニケーション (リーダーシップの問題と解決策) | | |
| 編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus | 前田 裕介 | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course | 前田 裕介 | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s) | 前田 裕介 | | |
| 科目分類 / Course Category | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Intended year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Course style | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | | | |
| 対象学生 (クラス等) / Intended year (class) | | | |
| 担当教員Eメールアドレス/E-mail address | maeday nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください) | | |
| 担当教員研究室/Office | 共用校舎2 教員室(7) | | |
| 担当教員TEL/Tel | 095-819-2459 | | |
| 担当教員オフィスアワー/Office hours | 火曜日14:00-19:00 (事前にアボをとっていただければ確実です) | | |
| 授業の概要及び位置づけ/Course overview | 自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を 実生活の中で模索することをねらいとしています。また、将来、地域社会・あるいは国際社会のリー ダーとなるために、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、リーダーシップに必須のコ ミュニケーションの基礎を学びます。 前半は、主にリーダーシップに必須のコミュニケーションの条件について学びます。 後半は、身近な生活におけるリーダーシップの課題を抽出し、その解決策について学習していきま す。 | | |
| 授業到達目標/Course goals | ?◎ 自分の対人関係スタイルを分析することができる。 ?A 調べたことについて、個人あるいはグループプレゼンテーションを適切に行うことができる。 ?B リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。 ?C コミュニケーションのもつ機能について説明することができる。 ?D グループワークを通じてコミュニケーション力を向上させることができる。 ?E 長崎に目を向け、課題を明らかにすることができる。 ?F 「グループワークとは何か」という問について自分自信の答えを持つことができる。 | | |
| 知識・技能以外に、この授業を通して身につけ て欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3) | 主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society | | |
| 学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking | A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers | | |
| 成績評価の方法・基準等/Method of evaluation | | | |
| 各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson | 詳細は授業計画詳細を参照 | | |
| 事前・事後学習の内容/Preparation & Review | レポート (A4サイズ1枚程度) やプレゼンテーションの資料作りを課題として出すことがあります。 | | |
| キーワード/Keywords | リーダーシップ、わかりやすく・ためになって・面白い、ボードゲーム | | |
| 教科書・教材・参考書/Materials | 特に指定しません | | |
| 受講要件 (履修条件) /Prerequisites | 毎回授業の終わりにミニレポートを課します。ミニレポートを提出しないと出席とみなされません ので注意してください。 | | |

| | |
|--|---|
| アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities) | 長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp |
| 備考 (URL) /Remarks (URL) | |
| 学生へのメッセージ/Message for students | 「リーダーシップ」と聞けば思い浮かべるのは、先頭に立ってグイグイ引っ張っていく人という印象...でも実はそれだけがリーダーシップじゃないんです！あなたにも私にも実はあるかもしれない新しいリーダーシップ、この授業で一緒に楽しく探していけたら嬉しいです。 |
| 実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N) | N |
| 実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course | |
| 授業計画詳細 / Course Schedule | |
| 回(日時) / Time(date and time) | 授業内容 / Contents |
| | 第1回：オリエンテーション「二人は出会ってしまった」 |
| | 第2回：自己紹介のプレゼンテーション「わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又です」 |
| | 第3回：自分自身を分析する「人は他人を完全に理解することはできない。自分自身だって怪しいもんさ」 |
| | 第4回：コミュニケーションの基礎を学ぶ「あの?もう一つだけいいですか??」 |
| | 第5回：リーダーシップの理論を学ぶ「船頭多くして船山に登る」 理想的なリーダーシップを考える「ささやかな夢を集めて ラッピングしてみりゃただの理想論」 |
| | 第6回：グループワークの利点と欠点を学ぶ「水に水を足しても水である」 |
| | 第7回：ゲームで自分のタイプを知る「現実世界(ゲーム)が僕らを追いつめるためにあるならば、せめて朽ちぬほどの馬鹿でありたい」 |
| | 第8回：ゲームで自分のタイプを知る「正しいことをしたければ偉くなれ」 |
| | 第9回：映画に見るリーダーシップ「今日人類は初めて木星に着いたよ」 |
| | 第10回：映画に見るリーダーシップ「300年後に届くメッセージ！それでも送るよBabe.」 |
| | 第11回：これまでのリーダーに学ぶ「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」 |
| | 第12回：これまでのリーダーに学ぶ「風の中のすばる、砂の中の銀河」 |
| | 第13回：これまでのリーダーに学ぶ -プレゼン編- |
| | 第14回：これまでのリーダーに学ぶ -プレゼン編- |
| | 第15回：レポート試験とまとめ「そうか、世界はこれから始まるんだね」 |